

# 乙 頁

お と さ だ

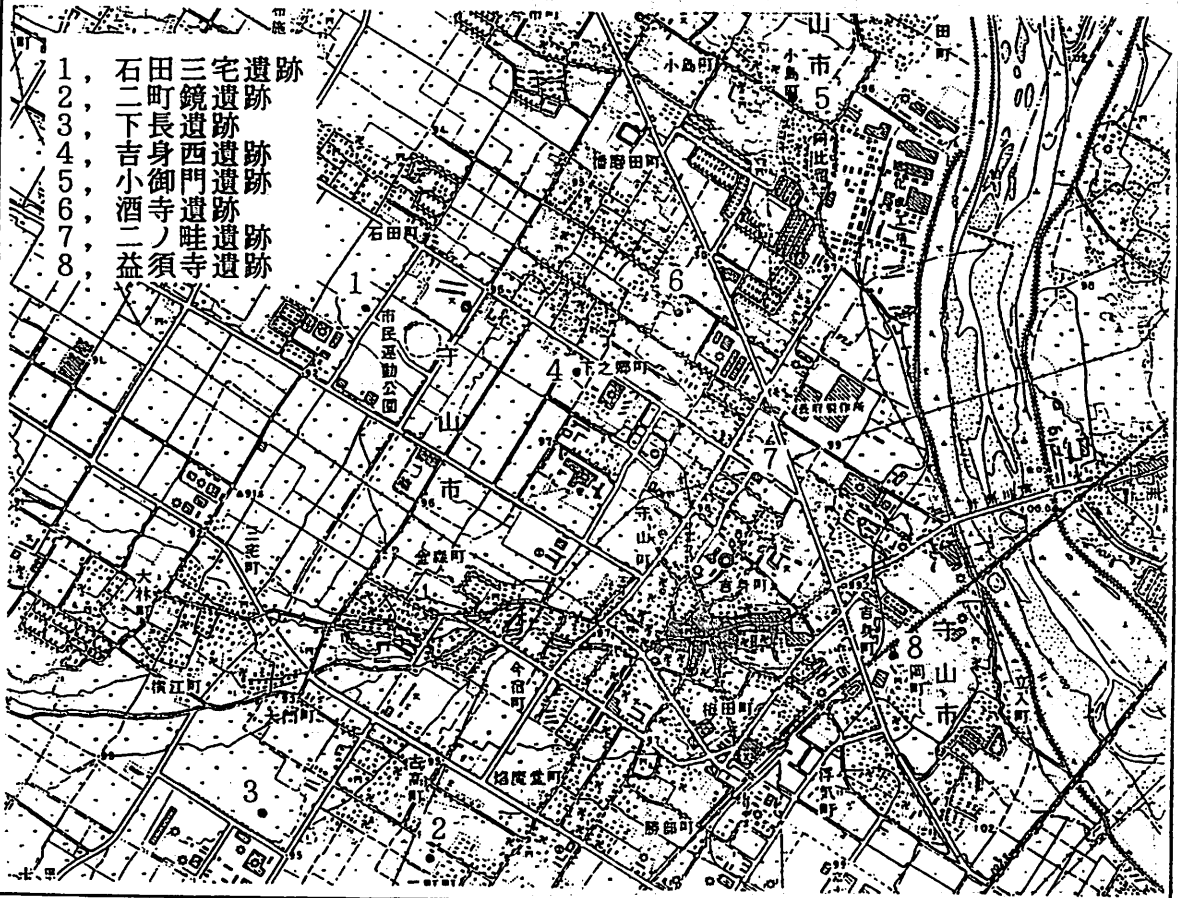
第53号 通巻10巻第4号  
1990年11月20日 発行

守山市立埋蔵文化財センター  
☎0775-85-4397

〒524-02  
守山市服部町2250番地

## ☆ はじめに ☆

文化の秋、食欲の秋、読書の秋、、、。秋には色々な形容詞がつきますが、みなさんはどのような秋をお過ごしでしょうか。11月は、文化財保護強調月間です。守山市では、各地で埋蔵文化財の調査をおこなっていますので、近くにおこしの方は、のぞかれてはいかがでしょうか。



☆ 発掘調査だより ☆

《 調査終了 》

1. 石田三宅遺跡<sup>いしだみやけ</sup>

調査地 石田町字五一條411-1

調査期間 10月22日～24日

調査面積 499m<sup>2</sup>

調査実施の理由 小規模店舗建設

今回の調査では、古墳時代前期の自然流路2条を検出しました。近接地で県教委がおこなった調査でも、同じような流路が見つまっていることから、このあたりは古墳時代には溝や流路が網の目のように流れていたことがわかります。遺物は流路の底から土器と木器がすこし出土しました。 (宮下)

2. 二町鏡遺跡<sup>ふたまちかがみ</sup>

8月20日から実施していました調査は、10月16日で終了しました。今回の調査では、室町時代、江戸時代の集落跡を重複して検出しました。なかでも室町時代の集落跡には、屋敷地を溝で囲む遺構が見つかっており、横江遺跡や大門遺跡と同じように居住地を区画割りするタイプの村であると考えられます。調査地の南端には現在も川が流れていて、当時はこの川から水を引いて屋敷地のまわりの溝に流していたと思われます。屋敷地の内側からは、建物と井戸が見つかっています。建物は柱<sup>ちゆう</sup>根が残っているものもあり、石を下に敷いたり、まいたりて安定するような工夫が見られます。遺物は、溝や柱穴から土師器の皿や常滑・信楽などの陶器<sup>とうき</sup>が出土しています。また、包含層<sup>ほうがんそう</sup>からは、江戸時代の伊万里・瀬戸などの焼物も多く見つかっています。今回見つかった集落跡は、調査地が現在の集落に隣接していることから二町町集落の前身ではないかと考えられます。

(宮下)

### 3. 下長遺跡

調査対象地の中央には、古墳時代前期に急速に堆積する旧河道が流れており、9～10月にかけてはその旧河道の左岸で2か所を調査しました。ひとつは低湿地帯の調査で、そこでは古墳時代前期の掘立柱建物3棟、溝数条と旧河道を検出しました。旧河道と並行して流れる溝からは、木製品と多量の古式土師器が出土したほか、突線紐式銅鐸につく双頭渦文飾耳が発見され、先般の現地説明会では注目を集めました。もう一つの調査地は58年度に実施したところの東隣りで、弥生時代中期の土壇2基、円形竪穴住居1棟、古墳時代前期の溝、掘立柱建物4棟、土壇3基、江戸～明治時代にかけての貯水施設（池）が見つかりました。この貯水施設は、直径12m深さ3mほどの掘方内に一辺4mの方形の木枠を備えており、木枠は直径40cmの丸太を榎形に組み、まわりを竹列によって囲んでいます。これは内部へ泥土が入り込まないように工夫されています。内部には、地上より5mのところには桶状の筒が打ち込まれ、埋土を取り除くと現在でもコンコンと水が湧き出てきます。

(川畑)

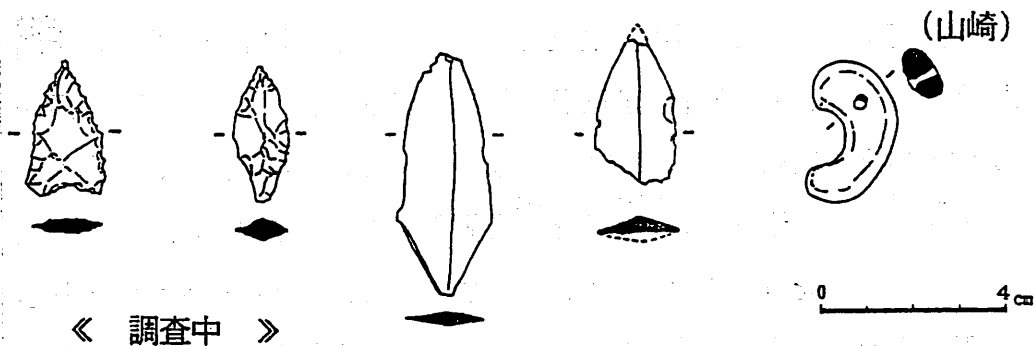
### 4. 吉身西遺跡

吉身西遺跡の北西端にあたる位置で、8月23日からおこなってきた調査は、11月16日をもって終了しました。調査の結果は、古墳時代初頭から平安時代中頃にかけての遺構が検出されました。古墳時代初頭は南北方向の大溝（幅3m、深さ1.5m）や幅1m前後の溝4条のほか、竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基が検出されました。これらの遺構からコンテナ約20杯の土器が出土しています。古墳時代後期にも溝が掘られ、同じように南北方向に流れていて、多量の砂で埋まっていた。平安時代中頃にも幅6m、深さ1mの溝があり、激しい流れがあったと思われ、砂で埋もれていました。なお、この溝から木下駄が出土しています。

遺物で注目されるのは、縄文時代の石斧、弥生時代中期の石斧、磨製石鏃、管玉

古墳時代前期の管玉、<sup>まがたま</sup>勾玉、<sup>うすたま</sup>臼玉、<sup>ゆうこうえんぱん</sup>有孔円板、<sup>けんがたもぞうひん</sup>剣型模造品、<sup>かつせき</sup><sup>げんせき</sup>滑石の原石などがあります。

弥生時代の石器群や古墳時代の玉づくり関係の遺物が数多くの溝に流入してきたことがわかりました。この地域では、古墳時代の玉づくりが既に明らかになっており、そのことを証明したといえます。なお、現状でも激しい<sup>ゆづい</sup>湧水があり、古墳時代以降の数多くの溝は、これらの排水を目的にしたものではなかったでしょうか。



《 調査中 》

### 5. <sup>こみかど</sup>小御門遺跡

調査を開始して以来、10月末までに3つのトレンチが終了しました。このうち第1トレンチでは地表下1.7 m近くのところから、東西方向に2条、北西方向に1条の溝を検出しました。東西方向の1条は20cmと浅いものでしたが、溝内より自然木と土器が多量に出土しました。時期は古墳時代後期と思われます。第2、第3トレンチでもそれぞれ1.8 m、2.3 mの深さで東西方向の溝を検出しましたが、遺物の出土はなく、時期はよくわかりません。

(畑本)

### 6. <sup>きかでら</sup>酒寺遺跡

7月から始めて約4ヶ月が経過し、およそ全体の半分の調査が終了しました。昨年、弥生時代中期にあたる約20基の方形周溝墓が、列状に130m以上にわたって検出されました。本年度はその南側を対象に調査を進めてきましたが、新たに6基の

方形周溝墓が発見されています。周溝内から出土した土器から、中期末～後期初頭の年代が考えられます。このほかに幅3m、深さ1mを測る弥生時代後期の溝が2状検出され、溝内から土器が多量に出土しています。

(伴野)

#### 7. <sup>にのゐ</sup>ニノ畦遺跡

調査地	吉身町三丁目字西ノ目514 - 1、515 - 1
調査期間	11月5日～12月28日
調査面積	1855m <sup>2</sup>
調査実施の理由	店舗建設

ニノ畦遺跡は過去の調査から、弥生時代中期と古墳時代前～後期の集落遺構が確認されており、そのうち弥生時代中期の集落については直径400mほどの環濠<sup>かんごう</sup>がめぐっていることがわかっています。

ニノ畦遺跡の調査は今回で19次目にあたり、今回の調査地点は環濠の内側にあたります。現在調査区の設定と遺構面の確認をしています。調査がすすめば弥生のムラの貴重な資料が追加されると思われます。

(川畑)

#### 8. <sup>やすでら</sup>益須寺遺跡

調査地	吉身町字浅田129-4
調査期間	11月1日～12月28日
調査面積	1956m <sup>2</sup>
調査実施の理由	工場建設

当遺跡は、JR守山駅の<sup>しきんち</sup>至近地に分布しているため、近年、毎年のように発掘調査が実施されています。話題を呼んだ昭和63年の前方後円墳調査地のちょうどJR琵琶湖線線路向かいに今回の調査地は位置します。

調査に着手したばかりで多くはわかっていませんが、8世紀ごろの須恵器、土師器や灰釉、緑釉陶器が検出した溝から出土しています。しかし、溝のほかは十数穴のピットが見つかるだけで、これまでの調査地に比べ、遺構は極めて希薄な状態です。当地は益須寺遺跡分布地の東辺にあたるという想定を裏付ける結果といえます。今後調査地を拡張していきますので、遺跡のはずれかどうかははっきりしてくるものと思われます。

(岩崎)

### 特別展のお知らせ

当センターでは、来たる11月25日(日)から12月2日(日)までの8日間、特別展を開催します。今回「守山の歴史を掘る」と題しての特別展は、守山市制20周年を記念して行なうもので、これまでの調査によって得られた結果を時代ごとにまとめて展示します。詳細は下記の通りですので、ぜひご来場下さいませ。

#### 記

期 間	11月25日(日)～12月2日(日)	期間中は無休です。
会 場	守山市民ホール 展示室	
入場時間	午前9時30分 午後4時30分	入場無料

#### 時代テーマ

縄文時代	狩猟・採集 <small>しりょう さいしゅう</small> の生活	奈良・平安時代	寺院・文字・まじない
弥生時代	稲作の始まり	鎌倉時代～江戸時代	武家社会と農村
古墳時代	巨大な墓と村	発掘調査と埋蔵文化財	

【後記】 秋季特別展を25日にひかえ、埋文センターはその準備でおおいそがし。窓の外では紅葉樹がいまが盛り、ともえているようですが。いま、しばらくはおあずけです。

K記